

利尻島沼浦海岸における無国籍船座礁事故に係る報告

北海道利尻漁業協同組合 専務理事 種谷 正邦

1 利尻島の概要と事故の顛末

利尻島は、日本最北端に位置し、面積約182km²で「利尻礼文サロベツ国立公園」に指定されている風光明媚な漁業と観光を基幹産業としている離島です。特に「利尻昆布」、「利尻のウニ」は有名ブランド品として全国的に知られている。

平成20年1月1日19時28分頃、北海道利尻島の南東、沼浦地区に外国の大型船が座礁したとの一報を受け、直ちに現場へ向かい状況を確認するとともに対策本部を設置した。

事故当時は、北西の季節風が激しく吹き、視界不良だったので、緊急入域のため浅瀬まで入ってきたものと思われる。また、幸いのことに座礁した場所は、利尻島で唯一の砂浜海岸であったため、この時点での油の流出は確認されなかった。

特に当海域では、利尻昆布をはじめウニ、ホタテ養殖等好漁場にあるため、時化等による船体への破損と燃料油等の流出による漁場環境への甚大な被害を発生させる恐れがあったので、その対応が急がれた。

◆座礁船の概要

船籍	カンボジア (無国籍 2006・7・25有効期間満了) DERBENT (デルベント号)
所有者	ASHUROV VADIM (アッシュロブ ワジム)
乗組員	ロシア人10名、ウクライナ人4名
全長	42.76m
幅	10.06m
総トン数	602t
製造年	1969年 (船齢39年)
燃料油等	約60kl

※船主責任保険未加入



(座礁船状況 1月2日)

2 関係者との対応

座礁事故発生と同時に稚内海上保安部をはじめとする各関係機関とも連携し、利尻富士町長を本部長とする「利尻富士町沼浦海岸座礁船対策本部」を設置し、PI保険には未加入ではあるが、乗組員の安全確保を優先しながら、船体の引き降ろしや燃料油等の抜取り作業の実施に向けた体制を整えるとともに地元住民への説明会を実施し、理解と協力を求めた。

また、財団法人漁場油濁被害救済基金の油濁防除指導専門家を招き、油等抜取りにかかる作業手順等の指導を受けた。



(利尻富士町沼浦海岸座礁船対策本部会議)

3 座礁船引き降ろし作業等

対策本部は各関係者と協議を重ね、1月4日にタグボート2隻による座礁船の引き降ろし作業を実施したが牽引することができずに終わり、その後、1月5日に時化等による動揺を防ぐため船体固定作業を実施し、1月10日には漁業被害の防止及び漁場環境の保全のため、船体から約31klの燃料油の抜取り作業を実施した。



(燃料油抜取り作業 1月10日)

4 船主との交渉

船主との交渉のため、船主の来日を座礁事故発生当初から稚内海上保安部を介して粘り強く要求した結果、2月3日ロシアから来日したので、今までに要した費用及び今後予想される費用をそれぞれ請求するとともに座礁船の早期撤去を強く要請し、船主から了解を得た。しかしながら、帰国後は全く音沙汰が無い状態で、請求した金額の支払い及び座礁船の撤去はされていない。

5 乗組員の帰国

対策本部は、乗組員の安全確保を優先するため、稚内海上保安部が中心となり、座礁当初から再三にわたって座礁船からの下船を促したが、これには全く従おうとはせず、座礁してから約1ヶ月後の2月4日ようやく説得に応じ、乗組員14名全員が座礁船から退船した。

その後、しばらく滞在したあと、2月14日にウクライナ人4名が成田から飛行機で、2月19日にロシア人10名が稚内海上保安部の巡視船により、日ロ境界付近にてロシア国境警備局に引き渡し、全員が帰国の途についた。

6 その後の対応

乗組員全員が退船し帰国したが、座礁船は放置されたままとなっており、時化等による船体損傷で燃料油等の海岸流出を防ぐため、財団法人漁場油濁被害救済基金の『特定防除事業』を利用しながら、座礁船におけるすべての燃料油及びビルジ等の抜取りを4月11日から16日にかけて実施し、約25klの抜取りをするとともに船体動揺による漁場被害防止のため、再度、船体の固定作業を実施した。

その後、道庁及び弁護士と協議を重ね、船体の解体処理について法的根拠での処理が可能との結論を得て、8月29日から解体作業に着手し、11月7日にすべての撤去作業が完了した。



(燃料油及びビルジ等抜取り作業 4月11～16日)



【撤去前 H20・6】

7 損害賠償等について

一連の座礁船にかかる船体解体費用及び油濁防除費用等一切の費用については、加害者が支払うのが当然の義務であるので、対策本部長と漁協組合長の連名により再三にわたって船主に請求しているが、全く応じない状況である。

そこで、弁護士と協議の上、平成21年1月15日に訴訟の手続きを取った。



【解体作業 H20・10】



【撤去後 H20・11】